北海商科大学 学報

Vol. 01

2006.9.30

HOKKAI SCHOOL OF COMMERCE MAGAZINE

北海商科大学学報創刊

この度、北海商科大学の様々な活動やニュースを皆さまにお伝えし、ご理解いただくため、学報を創刊することになりました。北海商科大学の校舎も完成しました。新しい校舎、新しい教育環境の中で、商科大学は、学生、御父母の皆さまと共に、教職員が一丸となって、未来を担うにふさわしい大学作りを目指します。この学報が、本学にかかわる皆さまの、互いの交流に大きく寄与することを期待します。

キャンパスニュース

大　学　校　舎　完　成

9月19日、本学2階図書館前ホールにて、北海学園大学大学院法務研究科（法科大学院）・北海商科大学校舎完成記念式が、カナダ、韓国、中国など、海外からも多数の来賓のご臨席を得て行われました。

札幌市都市局長田中透氏、森本本学学長によって校舎落成のテープカットが行われました。

校舎完成にあわせて、地下鉄東豊線「学園前」駅と校舎を結ぶコンコースが新設されました。内部には、喫茶スペースを兼ねた自由学習室が開設されるなど、本学学生の憩いの空間が広がりました。

さらに、地下鉄4番出入口には、高等教育機関と地域との調和を図る初めての試みとして、「ハート広場」という、お年寄りや小さな子どもの憩いの場も新設されました。

工事は、校舎周辺の植栽を除いてほぼ完了し、より充実した教育施設として、第2セメスターを迎えます。

地下コンコースと直結して、自由学習室も開設されました。

校舎の真下にあたる場所には、自由学習室と隣り合ってコンビニエンスストアがオープンします。

学生証で入退室できる図書室。書架は使いやすさを考え低めに設計されています。

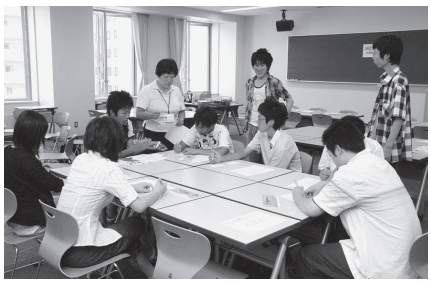
PHOTO 2006

入学式を終えて、新入生ガイダンスが行われました。
写真で手にしているのは、
学生証（非接触ICカード）です。
そのほか、キャンパスガイドなどを受け取り、
大学生になった実感をかみしめていました。

オープンキャンパス開催

平成18年8月4日、受験生に大学を公開する第1回オープンキャンパスが行われました。

1階ロビーで募集要項などの資料を受け取った参加者は、全体説明を受けた後、4つの教室に分かれて模擬講義を受講しました。観光産業学科・加藤先生による講義はワークショップ形式で行われ、高校の授業にはない新鮮さが、参加者の関心を引いていました。また蘇林先生、グラハム・ハード先生、水野先生による語学体験では、アジアにおける国際大学としての姿勢を参加者に印象づけていました。



2階図書館前では、教員が一対一で参加者の疑問に答える相談コーナーが設けられ、入試や学習内容についての積極的なやりとりが終了間際まで続いていました。第2回オープンキャンパスは、9月30日に開催されます。

北海商科大学 平成18年度 入学式挙行

平成18年4月5日、北海商科大学として初めての入学式が、北海学園国際会議場で行われました。

4月に晴れて北海商科大学に入学した、商学科98名、観光産業学科43名の合わせて141名。これに、北見キャンパスから移ってきた2年生31名が加わり、総員172名が北海商科大学・豊平キャンパスの初年度を迎えることになりました。

入学式では、森本本学学長が式辞を述べ、入学生代表の木戸誠君による宣誓、来賓祝辞と続いて、その後教員が紹介され、学生との初顔合わせとなりました。

また、カナダのレスブリッジ大学からテリー・ロイヤー理事長ご夫妻、ウィリアム・ケイド学長ご夫妻、リタ・ゾーグ学長秘書を来賓として迎え、ケイド学長より祝辞を頂きました。

PHOTO 2006

7月5日、豊平まちづくりセンターにおいて、国際交流センター、学生支援センター共催の留学生交歓会が開かれました。留学生に教わりながら参加者全員でたくさんの水餃子を作り、出来たてをおいしくいただきました。

本学学生 カナダ・レスブリッジ大学へ

カナダ・アルバータ州立レスブリッジ大学との学生交換プログラムに、本学から5名の学生が参加しました。このプログラムは、1986年より学校法人北海学園が行っており、今年は事業が開始されてから20周年にあたります。

8月4日から8月29日までの日程で、語学の集中学習、現地の学生との交流、地域の行事参加、州内の見学旅行などを体験してきました。

海外語学留学生 中国、韓国に出発

正規のカリキュラムとして行われる6ヶ月におよぶ海外語学留学は、他に類を見ない本学ならではの取り組みです。その記念すべき初の留学生が中国と韓国へ向かって旅立ちました。

中国の山東省煙台大学に13名、山東大学威海分校に15名、計28名の出発日は8月30日。翌31日には、韓国太田大学校に向け、9名が新千歳空港を発ち日本を離れました。日本への帰国予定は2月下旬です。

留学生は、どんな経験をして日本へ帰ってくるでしょうか。次号では、留学の様子を特集します。

中国社会科学院が北海商科大学に「北海道研究交流センター」設置

中国社会科学院(CASS)は、1977年5月に設立された国家諮問研究機関で、あらゆる分野の研究所と研究センターを擁しています。約4000人に上る研究者が所属し、国家の政策や世界情勢の分析を行っています。

北海学園北東アジア研究交流センター(HINAS)は、北東アジアにおける経済協力をどのように作りあげるか、長い間このCASSの多くの研究所と共同研究を行ってきました。

HINASとCASSは、これからの共同研究のあり方を協議し、持続的で緊密な共同研究を実現するために、研究者がいつでも行き来できる環境を整備することで合意しました。その方策として、CASSは世界で初めてとなる独自の研究センターを設置し、HINASと共同でアジアや世界の研究を進めることになりました。

本学8階に設置される研究所の名称は、『中国社会科学院北海道研究交流センター』。CASSは教育機関として大学院を併設しており、本学学生の大学院への進学を歓迎しています。より勉学に励み、世界的な機関で研究することを期待します。

商科大学の教育目的と教務

商学部長　西川博史

努力する者が高いレベルに達するための支援

教務には、大学の教育目的を体現するカリキュラムの運営と管理を行い、この過程において学生の勉学を支援・促進する任務がある。したがって、商科大学の学生が大学の教育目的を確実に達成できるようにいくつかの段階的目標を設定し、それを実現するための手段を提供する。

商科大学では、1年次において、外国語の習得目標を日常会話レベル、およびそれ以上の能力の取得においている。英語はこれまで学習してきたので会話力のブラッシュアップ、初めて学ぶ中国語・韓国語は、外国での留学を通した語学力の向上を目標にしている。また、誰もがただ漠然と勉強する平均的な教育は行わず、勉学に努力する者が、さらにいっそう高いレベルに到達できるように支援する教育方法を取り入れている。したがって、学生諸君には再三注意を促しているように、授業への出席は当たり前のことで、授業に出席すれば勉強した気になるような態度は改める必要がある。こうしたことを徹底するために、第2セメスターからは新たな手段を用いて学生の勉学支援を行うつもりでいる。努力をせずに、新たな知識や知見が身につくはずがないことは自明であり、ましてや他人の勉学を阻害する行為はあってはならない。

高校までの勉強は勉学の基礎であり、大学ではその基礎の上に普遍的概念や抽象的な理論一般を学ぶのであり、暗記力に依存する勉強の仕方を、思考力を強化する勉学方法へ転換させなければならない。そのための支援を惜しまない。努力しよう。

大学図書館の新たなあり方を求めて

教務の意義や大学の目的について、すでに述べたことであるが、大学ではたくさんの書物を時間を惜しんで読むことが必要である。知識の宝庫である図書館の図書はそのような学生諸君を待っている。

しかし、残念ながら、いまだ図書館を単なる本の置き場、本の倉庫のように考える学生が多い。こうした考え方を改めることは容易ではない。いくつかの手段を用いて変革を行わなければならない。そのために北海商科大学では、図書巡回システムを導入して、大学自体が一つの図書館であるような形にしたいと考えている。大学内であれば、どの教室、どの空間にも図書があり、どこにいても図書を手にできるような体制を構築することである。このようなシステムの導入は、その方法や手段のち密さに依存するものではなく、学生諸君の勉学意欲と社会的モラルの向上に依存する。他の国々では、このような巡回図書館方式が普及している。自分たちで、自分たちの大学を創造するのだという意気込みで、このような図書館システムを作り上げてみようではないか。

PHOTO 2006

下は、表紙に使用されたカットの全体写真です。
学報創刊号の表紙は、
講義後に撮影された一年生の写真でした。
活気に溢れた学生生活の様子が伝わってきます。

第2セメスターの行事予定

【2006年】
- 10月 2 日(月)　講義開始
- 12月25日(月)　冬季休業開始

【2007年】
- 1 月 9 日(火)　冬季休業終了
- 1 月10日(水)　講義再開
- 1 月20日(土)　大学入試センター試験
- 1 月21日(日)　大学入試センター試験
- 2 月 5 日(月)　第2セメスター・第2学期講義終了
- 2 月23日(金)　海外語学留学生帰国(中国)予定(1年次)
- 2 月25日(日)　海外語学留学生帰国(韓国)予定(1年次)

【広報委員会からのお知らせ】

- 学報の学生編集部員を募集しています。
- 今号の学報を「北海商科大学学報」としましたが、親しみやすい名前を募集しています。
- 「北海商科大学」の略称を募集しています。
  例：北海学園大学→学園

連絡先：広報委員 岩崎・大東まで

北海商科大学学報　第1号
発行日：2006年9月30日　発行：北海商科大学　編集：北海商科大学広報委員会
〒062-8607　札幌市豊平区豊平6条6丁目10番　TEL011-841-1161　FAX011-824-0801　http://www.hokkai.ac.jp/　制作：エディアワークス